

## 特殊部落に就きて

遠藤隆吉

今日此會に於て何か講演するやうにといふ御話でありまして、自分も其際は自分の研究の一端となることとありますから、出来る限り勢力を籠めて今晚の講演を致します考であつたのであります。如何にも近來少し専門違ひのやうであります。周易などの研究をして居りまして、是が爲に昨日來たツた一字を調べる爲に費しまして、殆ど今日特殊部落の方面に就ての御話を纏めることも出来ないやうな譯で、今晚申上げますことも散漫として居るのみならず特別に深い御話でもありませんので、洵に恐縮の次第と存するのであります。ごまか其様な御積りで御聴き下されむことを希望いたします。特殊部落のことは唯今加藤博士より以前より研究して且又深い研究があるといふ御話でありましたけれども、自分は特殊部落は二百七八十の部落は廻つて見ましたけれども、どうも學問の上から見て是は面白い、是ならば間違ひはないといふやうな結論を得ることがなく、出來ませぬので、今日に至るまでまだ迷つて居るやうな次第であります。甚だ詰らぬ事を申上げますのでございますが、どうか暫く御聴き下されむことを希望いたします。

米騒動がありましたから特殊部落の問題は端なく一代の注意を惹いたやうであります。けれども特殊部

落といふものが特別な一つの階級であつて何か事があれば能く騒ぎ出すといふやうなことは是は各所に於て以前からいはれて居つたことであります。福島縣の巖江町などに於きましても悪い人間といへば殆ど巖江町に限られて居るやうな工合であります。又福島市の側の福島町にしましても、悪い人間といへば福島町に限られて居るやうな譯で、事があれば特殊部落の人間が騒ぎ出すといふことは前からあることであります。が、今回も大分特殊部落が騒いだやうな鹽梅であります。けれども今回の騒動は私の見る所ではどうも特殊部落が原因をなして居るものとは思はれないのであります。今回の騒動は是は所謂社會主義的の騒動であつて單に特殊部落の問題とは私には思はれないのであります。社會主義と申しますといふと直に危険であるといふやうに思はれて居ります。其筋に於ても苟も社會主義といふやうな文字を列するといふと直に危険視するといふやうな鹽梅であります。社會主義といふ言葉を少しく廣く解釋しまするといふと、そんな危険といふやうな意味はないかと思ふのであります。即ち貧富の懸隔に就て感情を興奮させて居るといふのも矢張り謂はゞ社會主義的の考であらうと思ふのであります。今度の騒動の如きは私の見る所では貧富の懸隔の觀念が強くて是が爲に起り來つたものであらうといふやうに思はれます。其證據には特殊部落が騒出したにしましてもそれに伴つて騒いだ謂はゞ彌次馬であります。彌次馬の連中といふものは手當り次第に富豪の家に向つて亂暴を加へた。京都あたりにしましても特殊部落が始めであつたには違ひありませんけれども、富豪の家は随分襲はれるといふ風聞が立つて居つたのであります。

が、所謂貧富の感情が爆裂したものと思ふのであります。大體から申すと貧富の懸隔の爆裂であるから餘ほど日本に取つては深い意味のあつた騒動であつたと考へるのであります。今世間では労働問題を提供して非常に之を騒いで居るやうであります。労働問題、労働問題といつて十數年來非常に騒いで居るやうであります。又近頃濫濫男爵であるとか又は其外二人ばかり名前がありました。ついで忘れましてけれどもそれ等の人々に依りて労働問題といふものがやかましく唱へられかけたやうでありますけれども、私の見ます所では労働問題といふやうなものは、今日の儘に放任して置いても十分なものであらうと左様に考へるのであります。即ち言換へて見ますと、職工とか乃至一般の労働者を保護するといふことは私は悪いとは申しませぬ。勿論是は保護せぬではならぬと思ふのでありますけれども、日本の識者といふ者が第一に心配せなければならぬのは、そんな労働問題ではなくして、如何にして貧富の懸隔の感情を打破するか、貧富の感情を打破して日本を安泰の地位に置くといふことが是が重大な問題であらうと自分には思はれるのであります。それにはどうするかといふと、是も愚見でありますけれども、どうしても是は中産階級を保護するといふことを努めてやらなければならぬ。社會の中に於て如何なる分子が悪いのであるかといふと、中産階級が一番私は悪いものであらうと思ふのであります。是は善くて悪いものであると思ふのであります。即ち中産階級が日本の國體を維持する、日本の國家を維持する中心であると同時に中産階級の不平分子といふものは是は世界の事を能く知り抜いて居りまするし、労働者のことなどを知つて居り

まするから、巧みに労働者などを煽動してそれで富豪などに對する感情を興奮させて來るといふのでありまするから、どうも中産階級の中の不平分子が宜しくないといふ自分には思はれるのであります。社會の多數は所謂衣食階級で唯だ飲んだり喰つたりすれば宜いといふ階級であります。即ち労働者の階級であるといふが、又は唯だ實利を目的として自分の利益さへ得れば宜しい、少しも日本をどうすれば宜いか、國體を如何にすれば宜いか、一週間に一遍も腦髓を痛めることのないといふやうなものは衣食階級であらうと思ふのであります。どんなに金があつても、どんなに利益があつても一週間に一度も我國家を如何にせむやといふことに就て腦髓を痛めない者は私は是は衣食階級に入るべきものであらうと思ふのであります。衣食階級の輩で中産階級は mental culture の階級でありますから、總ての點に於て發達して居る。此發達して居る所の衣食階級が紛亂煽動させるからであると思ふのであります。さうでありますから中産階級を保護すれば國體も安泰に維持されるであらうと思ふ。

然らばどうすれば宜いか、中産階級の經濟状態といふものを保護するといふことは必要であります、其外一般に色々な方法もありませうが、今晚はそれを申すのが趣意ではありませぬから申ませぬが、兎に角中産階級の氣分を振張させて不平分子を無くして彼等の信念の中心を造つてやるが必要であらうと思ふ。今日の場合に於ては私は中産階級の振張といふことを政府も努むべきで民間の者も努むべきであらう、是が社會問題としては必要な事であると左様に考へて居るので、私は社會學をやつて、社會學を實

際に應用する方面に於ては中産黨を組織する。其方面から日本に貢獻したいといふことを考へて居る者であります。労働問題の如きものは其點から見ますといふと、甚だ是は小問題で枝葉的問題である。どうして近頃又再び労働問題などに就て殊更に精神を配るやうになつたのかを私かに怪んで居るのであります。米騒動などがあれば尙更中産階級振張を圖らねばならぬ、是が根本の問題である。枝葉を成るべく追はない考であります。自分の全體の考は先づさういふやうな考でありますけれども、それに就きまして考ふべき問題は第二に起つて來る問題であります。詰り特殊部落の問題であります。特殊部落といふものは今度の米騒動でも分りますやうに、總ての地方に於て社會の不平分子の一つをなして居る、彼等の多くは無論衣食階級であります。衣食階級でありながら中産階級の不平分子と同じく社會の不平分子を組織して居るといふ所から特殊部落が問題になるのであらうと思ふのであります。彼等が若しアイヌ人の如くに何等勢力が無い者でありましたならば問題にならぬのであります。彼等は衣食階級であつて不平分子があつて人口百七十萬からあるものでありますから、そこで此問題にするに足るのであらうと思ふのであります。

それから後の話は何處から申上げて宜いか、甚だ是は秩序の無いことになりまされるけれども、併し大體から申しますると、特殊部落といふものゝ中にも大別すると二種類あるやうであります。一つは所謂穢多といふ者であるし、一つは非人といふ者であります。穢多と非人といふのは御承知でありませうけれど

も、判然たる階級をなして居つて少しも混同するといふことがない。穢多は非人を見るといふと、彼等は實に下等の社會である、己れは穢多だが彼等とは逆も結婚することは出来ぬといつて威張つて居ります。自分が福島に参りました時分に、彼處の穢多の部落に行つた所が、向ふの部落を指して、あつちの部落なにかとは飯は喰ひませぬ、あんな者など、結婚することは萬一にもありませんといつて威張つて居つた。どういふものかと聽いて見たら、彼處は非人であるといふので、非人といふのは餘ほど穢多から見ると馬鹿にされて居るやうであります。それが何處の土地でもさうかといふと、先づ一般にさうのやうではありませんが、さうでない所が自分の見た所に一箇所ありました。是は自分の見た所で一箇所でありますから、外にもあるかも知れませぬ。それは何處かといふと、鳥取縣で米子の側に特殊部落がありまして、其非人の部落は非常に威張つて居る。何故威張つて居るかと聽きますと、幕府時代に殿様から十手を貰つて居つた、それで盜賊を捕へる役をして居つたといふので其處の非人部落は威張つて居りました。自分が訪問しました非人部落は何處に行きましても、どうも私共は昔いふ非人でありまますからと非常に謙遜の態度を執つて居つた。ところが穢多の方はどうかといふと、さういふ謙遜の態度を執らぬ、それから見ても非人よりも穢多の方が威張つて居つたといふことは事實であらうと思ふ。是は制度上で申しますれば穢多非人といひますから穢多の方が上には違ひありませんけれども、非人の階級は詰り人に非ずといふことで極昔から非人といふ名前はあるやうであります。「姓非人を賜ふ」といふことがあります。姓は「かばね」と昔

は讀んで居りますが、自分の社會學の立脚地から見ますといふと、姓といふ字は「かばね」とあれは讀めない文字のやうに思はれますけれども、兎に角日本の習慣では、姓の字を「かばね」と讀んで居つて「姓非人を賜ふ」非人といふ姓だといふことが書物に現れて居りますから、非人といふ者が昔からあるやうであります。徳川時代などには非人といふことが澤山使はれて居りますが、非人といふやつは人に非ずと書きますが、乞食の類であつて隨て非人といふ家柄はないやうであります。又當り前の人間になる機會があつたといふのは地方判例録などにはそれが出て居ります。地方判例録といふものには随分出たらしめもあるか知れませぬが、兎に角非人は竝の人間になることがある、けれども穢多は家柄であるから是非は竝の人間になれない者であるといふことが書いてありますから、どうも其様であります。穢多には穢多の頭があつて先づ關東で申すと彈左衛門とか、或は伊豫の方で申すといふとレンガハンザイモンであるとか、いふやうな穢多の頭があります。彼等は頭に依て統一されて居つたものでありますが、ところで非人の中には這入りますまいが、先づ穢多の中に入るべき性質のやうで、名前には色々の種類があるやうであります。是は自分は曾て「日本我」といふ書物に一つは書いたことがあつたのであります。此中に穢多の異名を書いたことがあつた。又其頃社會學研究序論集といふものを出して居つて、日本の各地の人から穢多の異名を募集したことがありましたが、兎に角いろ／＼の異名があるやうであります。それで中には穢多の中に入れて宜いか、非人の中に入れて宜いか、ちよつと分らぬやうなものがあるやうであります。

山窩など、いふ者は穢多か非人かちよつと區別することは出来ぬ者であります。それからチャセンなど、いふ者も是も穢多か非人か俄かに断定し難いと思ひます。彼等が竹類を以て營業として居ります所を見ると、穢多のやうに思はれますけれども、非人でも竹類を以て業として居る者がありますから、一概には断定は出来ぬやうであります。山窩、チャセンなどが一番餘計なのであります。シクといふのがありますが、鹿兒島にもありますし、京都にもありますし、奈良にも自分の見た範圍だけではそんな風にあるのであります。シクといふのはどういふ字を書くか分りませぬが、普通には下宿屋の宿の字が書いてあります。是はどうも穢多ではないやうであります。近所の人に穢多かと聞くと穢多ではないと申します。穢多よりも上のやうであります。けれども普通の人は交通が出来ぬのであります。自分の知つて居る學者で此シクに屬して居る人がありますが、斯ういふ人が吾れはシクだと名乗つて出て呉れると宜いけれども、どうも吾れはシクなりといつて呉れないので非常に困ると思ひます。

私は特殊部落二百七すばかりを廻りまして、何處に行つても彼等に演説をして聴かせるのであります。が、演説の趣意は大概同じやうであります。斯ういふのであります。何でも自分で以て吾れは穢多なりといへといふことが自分の演説の趣意であります。福島縣巖江町に行つた時に青年會を開きまして私に來て呉れるといふから行つたのです。ところが警察の署長だとか辯護士だとかいろ／＼の連中が一緒に行きました。が、牛肉屋の二階で青年會を開いた。其前に斯ういふことがあつた。此福島の町は其頃人口は約六



百であつた、今では七百五六十あるさうでありますが、其福島町は穢多ばかりで若松の巖江町には今では七百五十ばかり人口がありますが、若松の市役所で以て一枚の方言を書いた刷物を拵へてある、それを學校の子供に與へたのであります。與へて其中にゲナイといふ字が書いてあつて括弧して「穢多のことなり」と書いてあつたのです。ところが巖江町の穢多の連中が腹を立つて、學校でそんなものを書くのは怪しからぬ、それを市役所で宜しいといふのがおかしいといふので、市役所に取消して呉れろといつた。其話を聽いて居りますから、私は其處へ行つていうてやつた。今晚青年會であつて我輩に來て演説をして呉れろといふのであるから來たが、元來此處では「ゲナイ、穢多のことなり」と書いてあるのを見て腹を立つたといふことであるが、そんな詰らぬことで腹が立つやうな人間に向つては、てんで演説する値打がないのだから吾々は嫌だといつたことがあります。それは非常に皆腹を立て、居るやうな工合でありました。なせ演説をしないかといふと、元來ゲナイ穢多のことなりといふのは日本の名稱ぢやないか、其名稱を日本の字引から取ることがどうして出来るか、日本の字引は日本共通のことで之を引抜かうといふことは天に向つて唾を吐くやうなものである、そんな分らぬ人間が青年會を開いた所が何の役にも立たぬ、吾々は演説は嫌だ、けれども何の爲に斯んな所にまで來て演説するかといふと、諸君に同情して諸君を救濟しようと思ふのである、それであるからして諸君は自分で以て穢多といふことがいへるやうにならなければ役に立たぬ、吾々は穢多なりといへるやうに、秀吉のやうになつても、己れの親父は昔は草履取をして居つた

のだとはツきりいつたやうに、そんな卑怯なことはいはない、伊藤博文にしても昔は家柄は宜くなかつたといつた所で伊藤博文のやうな人になつてしまへばそれで宜い、あなた方にしても、それがいへるやうにならぬ中は値打がないのだ、どうも腹を立つのはどうも野暮なことだといふやうなことであつたのです。後とて歸つて來て警察の人の話に、彼處の人間は亂暴をするから萬一の事がありはせぬかと、ひやくして居つたといふことで、なに私はもう穢多の部落には始終這入つて居るから、そんなことは平氣で居りますけれども、何處の部落に行つても己れは穢多なりといへといふのが自分の演説の趣意であつたのであります。それが内務省から人が行くといふと、吾れは穢多なり吾れは非人なりといへとはいはないで、宜い加減にいふものだから、どうも思ひ切つて話が出来ない。思ひ切つて話が出来ぬものだから同情も起らぬやうであります。廣島の福島町に行つた時に彼處は人殺しなどを能くやる所で、實に物騒な人間が多いのでありますから、どうも吾れは穢多なりといへと言つた所が、其處の人間だけは危険に見えたので演説の席上で修羅場でも拵へては困ると思つて居りましたが、初めはむつとするだらうけれども、話を聽いて見れば何でもないのでから皆成程と思ふやうになつてしまつたのであります。吾れは穢多なりといふやうにいへといふのが趣意であります。

少し話が横路に這入りますけれども、兎に角穢多といふものは非人の上であつて、今非常に擯斥されて居りますが、彼等を引離したらどうかといふ説があります。近頃新聞で見たことでありますが、内務省

でも穢多の部落を方々へ散さうといふ考があるやうであります。けれども私の實驗した所では撒散らすといふことは到底不可能のことです。彼等は一密所に集合して居るので勇氣がある、相互に助け合ふ勇氣を有つて居る。一人に離されやうならば、まるで助けなき土地に行くことになつてしまふので、穢多の部落を離れてはどうかと勧めたのでありますが、彼等は離れることは出来ないのです。内務省の力で高壓的に北海道に持つて行くとか何處其處に持つて行くとか、無人島にでも持つて行くとしても一部落全體を持つて行かなければ一人々々離して持つて行くことは萬が一出来ないのであります。それをやるにしましたならば、どうも失敗に終ることゝ思うて居ります。彼等は集合して居る所で始めて彼等は維持して居ることが出来ると思ふのであります。集合するものであるから彼等の中に穢多といふ氣分が出来てしまつて、穢多といふ一種の社會的の力が出来てしまつて他の部落と餘り交通をしないので隨て穢多といふ者と當り前の人間の感情の阻隔は未來に向つて取れまいと思はれます。穢多の一番大きいのは恐らく紀州の和歌山市の側のものでありませう。是は人口が二千からあるやうであります。今ちやもツと殖えたか知れませぬが、兎に角二千からあります。まだ大阪にも穢多の部落の大きいのはあります。それから奈良縣と岡山縣と、それから兵庫縣、三重縣、是等が穢多の部落の一番多い所であります。そこいらに皆固まつて居るものでありますから、どうしても穢多といふ社會力が出来て未來永劫とはいひませぬが、未來長きに互つて感情の阻隔は免れませぬ。それを一人々々離すといふ考は間違つた考だと思はれます。

ところで彼等の起源といふものは、どういふものかといふことを話は前後しますけれども申して見たいと思ひます。彼等の起源はちよつとむづかしい問題であります。穢多の起源はどうも自分にもまだ能くは分りませぬが、人種學の先生は人種が違つて居るといふことを申します。私は人種學の方面から見ても果して違つて居るかどうかといふことに就いてはまだ分りませぬ。ところでそれならばどういふものであるか、自分の考へだけを直接に申上げますといふと、私は穢多といふものは所謂職業の階級であらうと思ふやうに考へるのであります。人種の違ひといふ譯ではなくして職業としての階級であつた、穢多の中に這入る奴は勿論餘り喜ばないことをすることです。朝鮮から捕へて來た者をやつたとか、又は日本の中で比較的經驗のあつた者をそれに當てたといふことがあるか知れませぬが、兎に角職業階級といふものに歸著するものと思ふのであります。何故さういふ職業階級といふことが起つたかといふと、日本では清淨潔白を好み死んだ者を非常に嫌ふといふ所から勢ひ死んだ者を片附ける階級が無くてはならぬので、それでさういふ職業階級を造つたものかと思ふのであります。それで其中に朝鮮人が居るといふことを申します、それを證據立てんとして、武藏國などは昔朝鮮人が大分來た。來た所には穢多の部落があると思ひますけれども、朝鮮人と穢多とは關係が無いことではないかと私は思ふのであります。移住して來る人間は昔は優遇して居つたのであります。或る時代の朝鮮人を穢多にしたといふことはどうか知れませぬけれども、一般の人を穢多にしたといふことはなからう。新撰姓氏錄などに依て見ると、日本の人

口の約七分の一位は外國人であつて而かも彼等を優遇して居つたのでありますから、朝鮮人を穢多のやうな者にしてしまふといふことはなかつたらうと思ひます。矢張り職業階級とする方が宜いだらうと自分は考へて居ります。或本には天智天皇の條下に同火同食せずとありますが、そんな時代には穢多といふことは分つて居らぬやうであります。穢多といふ文字の分つて居るのは後醍醐天皇の頃であります。ざつと申すと起源はそんなものと思ひます。久米邦武先生の御話に依ると、穢多といふ者は非常に威張つた者であつた、何故なれば穢多は土地を有つて居つた、普通の人ではなか／＼土地を持つといふことは出来ないのに穢多に限つて土地を有つて居つたのであるから、餘ほど穢多は威張つて居つた、昔は百八十部の中で穢部といふものがあつたのであると曾て史學雜誌に御載せになつたやうであります。どうも穢多といふ者は昔の賤民といふ者は違ふやうであります。賤民といふ者にもいろ／＼ありますけれども、昔の賤民といふ者は賣られたり買はれたり人身の自由を有たない奴である。けれども穢多といふ奴はそんな者ではなくして矢張り久米先生のいはれましたやうに土地を有つて居て所謂職業こそは穢ないけれども兎に角大威張りの階級であつたのでありますから、昔の賤民といふ者は種類は別のものであると自分に於ては兎に角さう考へて居るのであります。

それで穢多は起源といつてもざつと申すとそんなものでありますから、どこで穢多の部落に參りますといふと、どんな部落に行つても大概是手前の祖先はどうの斯うのといつて書いたものがあります。私も

方々に行つて記したものがありますが、重くて持つて來られませぬが、大阪の渡邊村に手前の祖先是神功皇后の三韓征伐の御供を仰付けられたといふ者がある。それが渡邊村の記録として書いてあります。大和笠縫郷といふ町には、淡山神社の下になりますが、自分の祖先是淡海公に従つて外國に行つて歸つて來た者であるといふ者がある。それから彈左衛門の一家の中にも如何にも彈左衛門の祖先是えらい、源の頼朝から長吏といふ名稱を貰つたといふことが書いてあります。是も歴史上値打のないものと思ふ。兎に角何處の部落に行つても手前達の祖先是立派な者であるといふことを申して居ります（書類廻覽）。之を：

……（書類廻覽）

色々話が前後しますけれども、彼等の一つの特色は神社が無いといふことが特色であらうと思ふのであります。今では隣の氏子など、合併して居りますが、是は何かといふと神様は穢れを嫌ふのでありますから、死んだ者を扱へば神様は祭られぬといふことから神社が無いのだらうと思ひます。今では祭つて居りますけれども兎に角神様を信するよりも彼等の中には眞宗が一番多いやうであります。自分の見た中では大部分は眞宗であつたのでありますが、其次には日蓮宗もありますし、臨濟宗もあります。兎に角佛教が勢力を占めて居るが神社を祭らぬといふことが一つの特色であらうと思ふのであります。

彼等が竹細工をして居るといふことは是はさういふ原因だか知りませぬけれども、彼等の中では御互ひに交通して居りますから、そこで一部落で竹細工をするといへば、それが日本全體何處に行きましても

竹細工か皮細工に決まつて居るやうであります。百姓をして居る奴もありません、竹細工は非人の方でもやつて居りますから、穢多にはかり共通なものではないやうであります。

それで又彼等の不潔であるといふことは是非常なものであります。大和の穢多の部落に行つて彼等の湯に這入つて居る状態を見ると、まるで湯が眞黒な色をして居る。三尺に六尺だから疊一疊敷位の風呂に十五六人這入つて居るから随分穢ない。其爲に彼等の部落ではトラホームが一般に流行して居つて何處でもトラホームに罹らぬ奴は殆どないやうであります。トラホームに罹るのは彼等の體質かといふと、そんな譯ではない、不潔から來たやうであります。穢多の部落を嫌つて申します者は彼等の性質だと申しますが、どうもさうでないやうであります。彼等の不潔は彼等の生活状態が然らしむる譯で萬年町あたりの貧民窟に行つて見ても穢なく感するのでありますから、不潔といふことは穢多なるが爲ではないと思ひます。

彼等の中に美人が多いといふことを能く申しますが、是はどうかと思ひます。私の見た所ではどうも美人ばかりとは思はれませぬ。或人は美人が多いといふのは穢多といふ者を穢ない者と思つて居るから、其中で偶々少し色の白い女でも見ると如何にも綺麗に思ふのでありませう。それに就ては自分の思ふ所では必ずしも彼等の社會に美人ばかりとは思えないのであります。又或人は食物の關係で餘り肉食ばかりするから油濃くなるのだといふ、それはあるか知れませぬ。和歌山縣の穢多の部落は死んだ馬を掘つて喰つた

なごいふことがありますから、随分肉食は好むやうであります。馬でも牛でも粗あらを買つて来て喰ふといふことは普通のことです。随て體質の上に關係して來るか知れませぬが、それが美人を生ずるといふ譯にまでなるとは思へぬのであります。

次に自分の特殊部落改良の意見の一二を申して見たいと思ひます。特殊部落といふものを改良しようとするにはどうするかといふと、兎に角彼等の中の精神を一新してやる必要があるだらうと思ふのであります。餘ほど特別の刺戟を興へなければ駄目であらうと思ふのであります。それにはどうするかといふと、私は彼等の中に大なる道路を拵へることであります。彼等の部落の中に十間道路位廣い道路を造ることが必要であらうと思ひます。さうすると公明正大の氣分が起つて來やうと思ひます。廣い道でも拵へてやると餘ほど公明正大の氣分が出来るだらうと思ひます。是は特殊部落の中には金持が居りますから、貸長屋でも拵へるやうにしましたならば造作ないこと、思ひます。

一つは神を信せしむることです。眞宗も固より勢力のあるもので宜しいことと思ひます。南條先生を始め眞宗の方々の御出での前で左様な事を申すのは甚だ失禮のやうであります。眞宗を信せしむることも宜いことでありませうけれども、私は神を信せしむるといふことが餘ほど必要であらうと思ふのであります。何故かと申しますと、眞宗の方で有難い々々といふやうにいはれると、善男善女を造る、彼等が善男善女になることは疑ひない、未來に於て極樂に行ける、阿彌陀様の側に行けるといふことを樂み



にして善男善女になるといふことは是は疑ひないことでありませう。けれども現世に於て彼等の一番心配するのは品位の無いといふことであらうと思ひます。彼等は品位の無いといふことが一番心配でありますから、品位をつけるといふことは善男善女といふことでなくして其以外に彼等が見るからに品位があるといふ者にしてやる必要であると思ふのであります。品位を附けさせるにはどうかといふと、矢張り衣冠を正しくするやうな工合にしてやるのが宜いと思ふのであります。馬鹿な人間でも羽織・袴でも着ると幾らか伶俐らしく見えるやうに特殊部落の人間であつても神前に行つて神を祭れば、品位を附けることが出来やうと思ひます。神主の行ふ所は神様の前に出て拜んで居るから何となく品位が附く。かく申せばそれはさうでないと思ひます。御怒りになる方がありませうが、神を祭るといふ神道の方は現世に重きを置くものであるから、有形的に神主が神を祭るやうなことをやると、有形的に品位が附くだらうといふやうに自分には思はれるのであります。是もどうも附かぬといへばそれまでの話であります。自分には附くだらうと思ふのであります。

それからもう一つは彼等の家に持つて行つて私は何か古事記とか或は日本紀とか神典の書類を持たせることが必要だらうと思ふのであります。何故かといふと、どんな人間でも孔子の像でも飾つて置くこと、斯んな荒屋に住んで居つても其志があるかと思床しく見える。特殊部落であつても神典や孔子の像でも飾つて居つたら幾らか話が出来るやうに、矢張り彼等の社會にさういふ風なことが必要だらうと思ふのであり

ます。それも家々何處でも揃つて古事記を並べて置く、唯だ表紙だけ古事記と書いてあつても中は何だか分らぬといふものを持つて来るか分りませぬから、それも困りますが、兎に角何か精神的の意味のあるものを持たしてやる必要であらうと思ふのであります。

まう一つは私は彼等の社會の中に大なる記念碑を造ることが必要だらうと思ふのであります。記念碑も立太子式の記念碑であるとか、又は其外世界大戦争の記念碑であるとかいふやうな記念碑に特別の色彩を見なければ行くまいと思ひます。平凡なものでは何の爲にもならぬ、奇抜なものを造らせることが宜いことと思ひます。さうなると此處に這入つたものが成程特殊部落は悔ることが出来ぬといふことになつて、そこで敬意を起すといふことがありはせぬかと思ひます。兎に角彼等を改良すると申した所で彼等に精神的の意味が出来て來なければ役に立たぬと思ひます。私は松山に於て彼等のレンガハンザエモンの身内の者だといふ者と話をして見ました。其人は眞白な髯が胸まで垂れて居る、私に逢つて司馬遷の史記には斯う書いてあるが、左傳には斯うあるなど、話をして居つたか、さういふ話を聴きますと穢多だとか何とかいふことは忘却してしまふのであります。それから考へても精神的の意味を有たせることが必要であらうと思ひます。彼等が漢詩でも漢文でも作れるやうになると値打が出て來る。英語でも宜いからペラノ、喋られるやうに、精神的の意味を有つて來れば彼等を輕蔑しない。昔は武士の家に行けば大小がある、床の間の掛物を見れば成程侍の家だと思ふ位に人間に敬意を起さしめる。ところが町家に行くと床の間には

大黒が飾つてあるといふやうな譯では敬意を起さしめない。矢張り特殊部落にも敬意を起さしむるに足るだけの精神的の意味を持たせるやうにしたが宜いと思ふのであります。自分はさういふ方面で彼等の改良を促して見たいと思ふのであります。其外のことには内務省で十數年來やつて居ります、産業組合とか、清潔法の奨励であるとか、いふことでは是は十分なことであらうと思ふのであります。餘り話を致すに秩序も考へて居ませぬで詰らぬ事を申上げて失禮であります。先づ大略は其様な事でありませぬ。ちよつと終ひに之を御目に掛けます。是は三河萬歳の歌でありますが、それから彈左衛門の書いたもの、ありますのは是であります。(書類供覽) 甚だ詰らぬことを申上げて失禮であります。又後とで何か御聞き下さることでもありまして、又答へられることでもありますれば却て幸福と思ひます。甚だ失禮いたしました(完)

